

# 子どもたちの明日

## Children, Our Future

2023年8月  
**137**号

### 目次

- ・ 自主運営中の24園 1頁
- ・ 地域の後押しで意欲高まる 3頁
- ・ 国内事業・CYR情報 4頁



新しい床シートは気持ちいい

## 自主運営中の24園

2011年から始めた村の幼稚園事業では、地域に移管した幼稚園が2023年3月で24園26クラスになりました。継続運営に欠かせない要素としてCYKが重視しながら支援してきた保育者給与、子どもの通園状況、保育者へのサポート。この3本の柱を中心に、自主運営中の幼稚園に運営状況をお聞きした結果をご報告します。

### 安定してきた保育者給与の支払い

最も重要な点は、保育者の給与がきちんと払われていることです。事業を開始した当初は、ほとんどの地区評議会に保育者手当の予算がありませんでした。自主運営後も地域が保育者手当を賄えることを優先し、CYKの保育者手当もまずは月額20ドルから始め、数年後に40ドルに引き上げました。2017年からはCYKの要請で地区評議会からも同額を足して80ドルになり、2019年以降は地区評議会が全額支払う契約を取り付けたのでした。近年では、地区評議会の年間予算に計上され、保育者に100ドルから162.5ドルが支払われるので

安心して仕事を続けています。加えて、2018年から始まった教育省の地域幼稚園認可制度では、18園が地域幼稚園の基準に沿って運営されていると評価され、22人の保育者が政府から直接今年は177.5ドルの給与を受け取ることができています。

### 5歳児の通園状況

幼稚園には4-5歳児を中心に789名が登録され1クラス平均30名の子どもが参加しています。村に住む5歳児全員が幼稚園に通えることが望ましいのですが、回答が得られた22村の統計では5歳の子どもの平均77%、中には、地域の5歳児の24%しか参加しておらず、4歳児のほうが多い幼稚園が1園ありました。原因はいくつかあります。5歳になると親の手伝いができるため、ネギなどの野菜作りをしている農家では、保護者が仕事と一緒に連れて行く。また小学校から離れた場所にある幼稚園では、親が2ヶ所への送り迎えが大変なため、兄弟の通っている小学校に幼稚園の子どもを1年早く行かせてしまうなどです。

4歳児では53%が登録しています。5歳児の人口が少ない2ヶ所の村では4歳児も同数受け入れていました。親の仕事の手伝いや小学校の教室で過ごすには幼すぎる4歳児が、幼稚園が開設されたことを幸いと参加しているようです。

登録した子どもの出席率はほとんどの幼稚園で87%から90%以上です。60~75%の幼稚園が3園ありました。保育者側の問題で子どもが欠席しがちな園もあれば、風邪をひいた時は他にうつさないよう家で休むよう促す先生がいる園など、理由は様々です。

自主運営に移行したあとも多くの子どもたちが幼稚園に通ってきており、小学校へ入る前に幼稚園に通える子どもの数は増えています。2012年からの10年で卒園児は2,820名になりました。

### 保育者へのサポート

保育者が常に新しいことを学び、自分の成長を実感しながら自信をもって毎日仕事を続けられることも幼稚園の継続運営につながります。18園の保育者たちは郡の教育局が毎月開いている木曜日の



技術会議に参加し、地域幼稚園のカリキュラムの使い方、子どもへの声かけ・対応の仕方、良い習慣づけ、5歳児の文字に関するテスト方法などテーマに沿って学んでいます。定期的に研修会に参加して他の幼稚園の先生と一緒に保育の勉強をすることで、励まされ刺激を受け、やりがいを持って仕事を続けています。一方、以前は参加していたが現在は郡の教育局から呼ばれない、郡の担当者が変わってからは参加していない6名の保育者がいました。破損・紛失した保育教材があるので新しくしたいけれど作り方がわからないという保育者の声も聞きます。地域の子ども担当者は、すべての保育者が木曜日の技術会議に参加できるように郡の幼児教育担当者に相談したいと話しています。

保育者がやりがいを維持するためには保護者や地域の人たちとの良好な関係、とりわけ小学校の校長先生からのサポートが欠かせません。

当会が支援していた3年間は保護者から月1ドルの協力金を集め貯金していました。自主運営に移行した後、コロナ感染症予防のための長い休みの後、特に今年から家庭の経済状況の悪化などで協力金を払わない親が出てきました。多くの幼稚園では、協力金を毎月集めることをやめ、必要な時をお願いすることにしました。電気代、水代、クラスの扇風機の購入などに協力を得ている園もあります。

そのような状況でも、4園では集めた協力金で週に2、3回おやつを提供を続けています。なかでもトクホート村の幼稚園の取り組みは画期的です。保護者がクラス運営委員会を作り、協力金を自分たちで集め管理し、親が毎日のおやつ準備をしています。

小学校の中にある18園では、多くの保育者が校長を頼りにしています。小学校の朝給食を幼稚園の子どもたちも食べられるようにしているところが2園ありました。カオムサムノー・クラオム村の先生は、「校長先生は、い



文房具は校長先生からのサポート

つも幼稚園で必要なことがあるときには、解決策を見つけようとしてくれます。今年は卒園証書をパソコンで作ってくれ、印刷代を保護者から集める予定です。私が保護者からの協力を必要としているときには、いつもお願いの手紙に小学校のスタンプを押して発行してくれます。保護者は、先生のためのお金集めではないとわかり、誤解されることはありません」と話します。他の保育者も文房具や紙、コピーなどのサポートが保育活動にとっても役立っていると感謝しています。

#### カオムサムノー地区の取り組み

2014年、CYKの支援でカンダール州カオムサムノー地区の3村に小学校の教室を使って村の幼稚園が開かれました。地区評議会で20年余り女性と子どもの福祉を担当し、2003年からは副地区長を兼務するスイ・コーンさんにお話を伺いました。

他に先駆けて実施しているのが地区評議会に幼稚園の教材製作費の予算を付けたことです。年に3回75ドルずつの支給が決まり、すでに最初の1回分を3園に支払いました。カオムサムノー・ルー村とリンチュウ村の幼稚園では早速クラスの床全体を覆うシートを購入し、クラスが綺麗に保たれています。75ドルでは足りなかったカオムサムノー・ルー村は、保護者全員に協力を依頼し、不足額以上のお金が集まりました。一部の親が不足分を払う

と申し出たのを断り、あえて全員に呼びかけた成果でした。カオムサムノー・クラオム村の幼稚園では、クラスで使う10ヶ月分の教材用に文字や数字、母音のポスターや絵をまとめて購入したので、足りない分は先生が前払いをしたそうです。

毎月3園の先生は地区評議会の会議に出席して課題を報告し、幼稚園の問題解決を図れるようにしています。今年から参加するときの交通費2.5ドルも払われています。

スイ・コーンさんがもうひとつ意識しているのが、政府の方針と足並みを揃えた地域での活動です。幼稚園があることで、子どもたちは全員6歳で小学校へ入学できますし、途中で勉強を辞めたりする生徒がほとんどいません。地区としても3村の幼稚園の発展に力を入れたいと考えています。ただ政府からの予算は十分とはいえず、下りるのに時間もかかります。幼稚園へ行く前の子どもが家庭で適切なケアを受けられるよう保護者会を開いて指導していく方針も打ち出されました。この動きを受け、スイ・コーンさんの地区では、今年は保護者会の予算も付けています。

アンケートへの回答から地域が郡の教育局の協力を受け、それぞれの状況に応じて幼稚園を運営し子どもたちの活動を盛り上げている姿が見えてきました。



花壇の水やり

## 地域の後押しで意欲高まる

### ミアチ・ポー

私は、2018年にプロスナップ村の幼稚園が始まった時から保育者として働いています。幼稚園は2021年3月に自主運営に移行しました。今年登録している23名の子どもほとんどが5歳児で、3歳児は受け入れていません。CYKが支援していた3年間、私の給料に関しては、CYKからの月40ドル以外に地区評議会から初年度25ドル、3年目には75ドル受け取りました。4年目に自主運営になり地域幼稚園規準の評価で認可されたので、政府から今年は177.5ドルを受け取っています。

#### 研修の機会

CYKの支援が終わっても、給料の面では安定してきており、特に大きな問題はありません。地域幼稚園の認定をうけた後、州の教育局からの招待で2020年にタケオ州とコンポンチュナン州で1週間ずつ2回研修会に参加しました。地域幼稚園の33項目の規準や3時間半のカリキュラムとスケジュールについて、年齢ごとの子どもの成長の特徴、対応の仕方、保育の活動計画の作り方や教材作り、地域の方々や委員会、保護者との協力関係作

りなどを学びました。

また郡教育局が開催する月1回の技術会議には、開催場所が遠くても体調が悪いときでも決して休まず参加しています。この会議で保育に役立つこと、新しいことを学びたいからです。会議は、昨年までは公立幼稚園の先生も一緒でしたが、今年から地域幼稚園の先生だけで研修会が開かれています。他の幼稚園の先生と話もでき新しい活動も学びます。テーマごとの研修会では、日々の保育活動の計画や月ごとの活動計画案の作り方や教え方、道徳・衛生の強化など。そして難しい科目の教え方を実演し、足りない点を皆で意見を出し合う実技指導をすることもあります。

#### 強まる地域との連携

幼稚園の仕事で問題があるときには、まず小学校の校長先生、そして村長や地区長にも相談します。会うといつも何か困ったことはないか聞かれます。自主運営になったあと地区長、村長、地区の子ども担当者が一緒に幼稚園に活動を見にきました。そのとき私がクラスが狭いので備品や教材を置く場所が欲しいと話すと、皆ですぐ費用のことなどを検討しました。そして3年間貯蓄した保護者の協力金を使い、足りない費用は地区評議会と保護者に協力をお願いしました。2021年の10

月には、もうひとつ別の小さい部屋ができあがったのです。

この村の小学校では国連世界食料計画の支援で朝食を出しており、校長先生が幼稚園の子どもにも朝給食が食べられるようにしました。新しく作った小さい部屋には、屋根も付いているので、雨が降っても子どもたちはその部屋で朝ご飯を食べます。

運営委員会は、地区評議会とも協力して今まで幼稚園の環境を良くしています。子どもが落ちないように庭の木の枝を切ったり、手洗い場や古タイヤの外遊具作り、電気を引いて扇風機を取り付けたり、トイレの修理もしていただきました。委員会のメンバーでもある小学校の校長先生は、とても協力的です。教材や飾りを作るための文房具、家庭で行うドリルのコピーなど必要なこと全てを支えてくれます。

#### 楽しい場所作り

幼稚園の運営で保育者ができることは、新しい保育技術を習うことだと思います。カリキュラムに沿って教える、朝礼で運動し、詩や歌を歌えるようにし、楽しく勉強できるように心がけています。幼稚園は子どもが勉強できるだけでなく、遊びながら成長できる場所にしたいので、



子どもが使いやすい魅力ある場所にしています。クラスの周りに花壇を作りました。去年は牛が入ってきて花を食べてしまいましたが、今年はもうちょっとしたらきれいな花が咲くと思います。どの子どもにも優しい言葉で話しかけているので、みな幼稚園へ来たがります。

子どもの体重と身長は毎月測ります。コロナ感染症予防のための長い休みの後、痩せている子どもがいることに気がきました。毎日きちんと朝食を食べていない子や朝ごはんのかわりに甘いお菓子を食べてしまう子もいます。親が子どもの健康にあまり気をつけていないからだと思います。子どもたちにご飯の話を読んで聞かせたことがありました。そのあと、子どもが親にその話をして家でもよくご飯を食べるようになったと話してくれたお母さんがいました。これから委員会に頼んで、保護者会で栄養のことや子どもをどう育てていくかなどのお話もしたいです。



もう一つの新しい部屋で

す。

子どもたちは、教材の整理やクラスの掃除などを手伝うようになりました。掃除の後、子どもたちはそのまま寝ころんで気持ち良さそうにします。また自由遊びの時間には、小さい部屋で絵や文字を書いたり、ぬり絵をします。最近は先生や医者、お店や美容院

などのごっこ遊びもします。言葉づかいもていねいになり、一緒に楽しく遊べるようになります。

親も私を信用してくれ、何よりも校長先生、村長や地区長まで幼稚園を良くしようと協力してくださるので保育の仕事が順調に進み、とても嬉しいです。もっと頑張ろうとやる気が出ます。

## 2023年4月～8月 国内事業

【東京事務所や会員・ボランティアによる織物販売活動】

- 5月 カンボジアフェスティバル 2023 (東京代々木公園)  
久しぶりに織物製品の値付けや当日販売に多くのボランティアの方がお手伝いくださいました。
- 7月 百観音明治寺の献灯会(東京都中野区)  
由緒ある祭事にご来場された皆様に CYR の織物製品を手に取り、ご購入いただきました。
- 8月 蓼科フリーマーケット(長野県茅野市)



## CYR 情報

織物販売の予定

- ① 2023年9月9日(土)、10日(日)  
東京事務所(CYR)にてピダン、絣地ほか展示販売  
両日ともに 10時30分から 16時30分
- ② 2023年10月7日(土)、8日(日)  
みなと区民まつりに出店します。  
会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。  
郵便振替 00110-8-36227  
三菱 UFJ 銀行 六本木支店(普通) 1351747  
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

幼い難民を考える会(CYR)は認定NPO法人です。  
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。

子どもたちの明日 137号

発行日: 2023年8月23日 発行者: 藤川 祥子

プノンペン事務所(CYK)

Borey Piphub Thmey Chhouk Va III, #55, St.95, Prey Sala Village, Sangkat Kakab, Khan Posen Chey, Phnom Penh, Cambodia  
TEL: (+855) 23 882 972 FAX: (+855) 23 882 971  
Email: info@cyk.org.kh  
URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

特定非営利活動法人幼い難民を考える会  
東京事務所 (CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル3B  
TEL: 03-6803-2015 FAX: 03-6803-2016  
Email: info@cyr.or.jp URL: <https://www.cyr.or.jp/>